

地域の自然と文化

私たちの校区は、学習材の宝庫です。自然、文化、歴史、産業など、財産・資料がたくさんあります。

1 白秋生家、白秋詩碑苑

白秋生家

白秋先生が19年間過ごした生家です。少年時代を過ごした生家の様子は『思い出』の中に詳しく記されています。土蔵の格子戸のところが白秋先生が過ごした部屋だったそうです。館内では、白秋先生の資料がたくさん展示してあります。

(学校より徒歩5分)

白秋詩碑苑



「山門は我が産土 雲騰る南風のまほら、 飛ばまし、今一度」で始まる『帰去来』の詩が刻まれています。本校の子どもたちは、白秋祭や学校行事の中で、白秋先生の柳川への望郷の思いを想像しながら歌っています。

(学校のすぐ西隣)

2 堀割

柳が垂れる沖端の堀割

校区には、堀割が網の目のように広がっています。現在のような堀割は、江戸時代に柳川城を守るため、また農業用水、飲料水を確保するために幾重にも堀を巡らしたといわれています。水面に映る柳や家の影、汲水場の眺めがいいですよ。

(学校より徒歩3分)

3 川下り

本校児童の体験学習



明治以降「どんこ舟」を使った「川遊び」が盛んに行われていました。1954（昭和 29）年の『柳川新報』には、月の出を待ってどんこ舟に乗り、お花から三柱神社の欄干下までを楽しんだという記事があります。白秋先生も、柳川に帰ってきたときには、「川遊び」を楽しんでいたそうです。

4 水天宮祭

水天宮



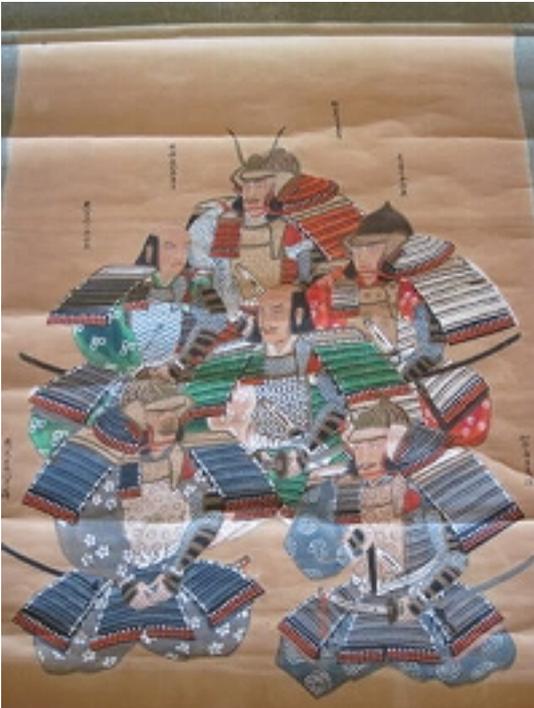
毎年、5月3、4、5日に例祭が行われます。三神丸という舟（小舟を6隻組み合わせてつくった舟舞台）で「水天宮囃子」が演奏されています。京風の上品な響きをもったこの囃子は現在、「囃子保存会」を中心に継承されています。保存会の方の指導を受けながら、本校の子どもたちも笛、つり太鼓、三味線を奏でます。08年には、東京で開催された「全国こども民俗芸能大会」でも披露しています。

5 ウナギ料理

柳川のウナギ料理「せいる蒸し」は有名です。近くにはウナギ料理店が10軒あります。全国各地からこの「せいる蒸し」を食べに大勢のお客さんが来ます。江戸時代では、堀割のウナギを勝手に獲ることが出来なかったそうです。ウナギ漁をする人は、柳川藩に一定のお金を納め、漁を許可されていたそうです。柳川藩は、そのウナギを大阪の間屋に卸していたので、柳川のウナギとして有名になったのではといわれています。

6 六騎伝説

六騎伝説（贈：古賀金太郎氏）



源平の合戦で西へ西へと敗走した平家の6人の落ち武者は、肥後の五箇荘に逃れました。その後も、源氏の詮議が厳しく、有明海に沿って沖端にたどり着き、漁をしながら暮らしたといいます。それから沖端の漁師のことを「ロッキュウ」と呼ぶようになりました。しかし、今では、その声も聞こえなくなっています。学校のすぐ西隣には、六騎神社があります。

7 三明橋と有明海

現在の三明橋



今から 100 年ほど前、沖端の漁師の生活は不景気のどん底で苦しい生活をしていました。その生活を変えるため、小さな和船（帆掛け船）で船団を組み玄海の荒海を越えての命がけの遠洋漁業に出かけたといえます。当時の矢留小学校の全校児童も、航海の安全と豊漁を祈って、三明橋から見送ったそうです。

三明橋架橋祝（大正 14 年 2 月）



8 有明海の珍味



めかじゃ (三味線貝)



ワタリガニ



わらすぼ

近くの有明海には、このような珍しい魚や貝がたくさんとれていました。見た目はあまりよくないですが、とても美味しいです。しかし、今では、流れ込む川の水が少なくなり、海の汚れが進みあまり獲れなくなったそうです。その他、クツゾコ、エツ、ワケンシンノス、シャツパなど珍しい呼び名の魚貝があります。

9 さげもん

沖端観光案内所のさげもん



柳川では、女の子の初節句に「さげもん」を飾る風習があります。この風習は、女の子の赤ちゃんがこれからも元気に育つようにと願いから、お婆ちゃんが着物や布団の切れ端で鶴、亀、うさぎ、ネズミなどの縁起物を作って贈るようになったそうです。江戸時代の終わり頃に始まったといわれます。

- ★このコーナーは、4年生の総合的な学習の時間での発表等をもとに作成しました。
- ★取材に協力してくださった地域の皆さん、ありがとうございました。